

草薙ゼミナール

2005 年度 卒業論文集

2006 年 3 月

大阪経済大学 経営情報学部

経営情報学科

指導教員：草薙 信照

草薙ゼミナール 2005年度 卒業論文集

【目次】

指導教員 草薙 信照 2005年度卒業論文集の刊行に寄せて

025010 木村 隆祥 アルコール消費の地域別比較

025020 田村 友樹 近畿圏のドーナツ化現象 ～人口増減は時計回りに変化するか～

025033 松崎 みどり 八重山諸島の観光産業と地域特性

025039 青木 文子 阪神・淡路大震災からの復興に伴う産業・人口構造の変化

025057 辻 真紀 都道府県別に見る少子化社会の実態

025084 岡本 尚也 和歌山県の交通網と地域格差の関係

025091 澤田 昌己 自動車販売台数に見る地域特性の分析

025104 益崎 美菜 HIV感染者・AIDS患者の地域比較

025131 竹端 慎吾 琵琶湖大橋の経済効果と通行料金に関する研究

025144 水草 裕香 大阪の地場産業の立地に見る地域特性

025201 小森 雄太 3大都市圏のドーナツ化現象

025206 高橋 憲幸 瀬戸大橋が周辺地域へ与えた影響

025225 森本 佳秀 関西鉄道沿線における乗降客数の変化と各地域の特色

025272 西村 知子 児童相談所における相談件数から分かる児童虐待の実態

025280 前田 香織 スポーツ指標にみる地域の特色

025286 山口 大輔 明石海峡大橋の供用による経済効果

025294 安實 由希子 千里ニュータウンにおける人口構造の変化

「2005年度卒業論文集の刊行に寄せて」

2006年3月

指導教員 草薙 信照

諸君は経営情報学部・草薙ゼミの第6期生であるが、2004年3月に1年間の米国・シカゴ留学を終えて戻ってきた私にとっては、ある意味で「最初のゼミ」でもあった。

それまで掲げていた「インターネットを利用した応用情報システムの研究」という看板に替えて、「ITを活用した地域経済情報の分析」という新たな看板を掲げてみた。このようにやや難しいテーマに集まってくれる学生が何人かでもいれば、厳しく鍛えてあげようという意図を持ったテーマ設定であったのだが、さて、何人の人がそれに気づいていただろうか。集まってくれた20名（最終的には17名）の諸君とは、ゼミコンパやお誕生会、3年冬の北海道合宿、4年秋の沖縄合宿などさまざまなイベントを通じて、深くまじわることができたと思っている。

3年生最初のコンパで、「クイーン」や「キング」など堂々たる愛称を持つ諸君と並んで、「ナギナギ」の愛称をいただいたのも良き思い出。4年生の最後にはゼミのブログを立ち上げるなど、本当に仲の良いゼミになってくれたことは大いに自慢できることである。



さて、卒業論文の総評である。並んだテーマだけを見ればかつてないほど素晴らしい出来栄え、全員が「地域経済情報の分析」という共通テーマに沿って研究に取り組んでくれたおかげで、とてもまとまりのある論文集が出来上がった。共通テーマという縛りはあるものの、各人が強い関心を持てるテーマを自ら選んだことで、辛い作業に耐え、時には涙を流しながらも、なんとか完成にこぎつけられたのである。このようなテーマについて諸君と一緒に考え議論する機会を得たことは、私にとっても良い勉強になることで、そういった意味でも諸君には感謝している。

毎年、完成した後だからこそ言うことであるが、私が卒業論文の意義としてもっとも重要だと考えていることは、研究内容や論文の出来栄えではない。1つのテーマについてこれほど真剣に取り組んで研究することが、諸君にとって初めての貴重な経験になったであろう、という点である。したがって、一生懸命に取り組んだという姿勢がひしひしと伝わってくる限り、考えていたことの半分しか言い表せていなくても、あるいは大半が参考文献からの引用の寄せ集めであったとしても、その論文は何物にも替え難い貴重な宝物であると言ってあげたい。個々の論文の評価は、その価値を最もよく知っている人＝研究者本人、そしてこの本を手にした読者の方々に委ねたいと思う。

大学生生活4年間の集大成として卒業研究という大仕事をやり遂げた経験は、必ずや社会人として仕事に取り組む際の自信につながるだろう。そして10年後あるいは20年後にこの本を開いた時、懐かしく良き思い出として、諸君の心に鮮やかによみがえるに違いない。

今後は同じ社会人として対等に、あるいは時を経て私を導いてくれるようなつきあいをしているならば、教師としてこれにまさる幸せはない。諸君の今後の人生における健闘を期待する。